

2020年度 事業報告

施設名 玉堤つどいの家

1 利用状況

事業種別： 生活介護 定員 13人 利用者数 13人

(1) 障害支援区分

区分6	11人	区分5	2人	区分4	0人
区分3以下	0人	計		13人	

(2) 障害の程度

		身体障害者手帳				計
		1級	2級	3～7級	なし	
愛 の 手 帳	1度	1人				1人
	2度	1人				1人
	3～4度					0人
	なし	10人	1人			11人
計		12人	1人	0人	0人	13人

(3) 年齢、性別

10代以下	0人	40代	2人
20代	2人	50代	4人
30代	5人	60代以上	0人
計		13人	

男性	7人
女性	6人
計	13人

2 事業実施状況

(1) 活動・支援の内容

概要

- ・ 開所日数 243 日、延べ利用者 2669 人、一日平均 11.0 人となった。利用率平均は 84.5%。
- ・ 緊急事態宣言が発令され、感染防止のため男女別に分かれての通所や通所自粛もあり、利用率は 8 割台（前年度比 -6.5%）となった。
- ・ 昨年度から同様、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から活動の内容を変更したり、室内レクを増やしたり、安全を第一に新たな取り組みを模索した。

*行事等

- 4月 男女別通所(14日～5/29)
- 5月 誕生会(18日)、
室内レク(男性：28日・女性：29日)
- 6月 室内レク(16日)、防災訓練(30日)
- 7月 暑中お見舞い(15日)、誕生会(28日)
- 8月 東/玉リモート交流会(18日)、誕生会(25日)
- 9月 お楽しみ企画(8日)
- 10月 誕生会(27日)、感謝祭準備(29日)
- 11月 感謝祭準備(24日)、誕生会(25日)
- 12月 誕生会(22日)、忘年会(25日)
- 1月 室内レク(19日)、誕生日会(26日)
- 2月 誕生日会(24日)、東/玉リモート交流会(26日)
- 3月 誕生日会(23日)、室外レク(31日)

*1日の基本プログラム

- 8:30 職員会議
- 9:30 利用者来所
- 10:15 朝の会、日中活動
(途中水分補給)
- 11:00 トイレ・食事準備(職員昼食)
- 11:30 女性昼食・歯磨き・トイレ
- 12:00 男性昼食・歯磨き・トイレ
- 13:00 昼休み
- 14:30 帰りの会
- 15:30 利用者退所
- 15:45 職員会議、館内清掃・消毒

* 日中活動	
・ 染め	布に動物や食べ物等の型抜きで糊を置いてデザインし、染料で染め、巾着等の製品を作成した。人気の高いランチョンマットを重点的に製作する合間に色づくりを研究したり、新たな製品作りも試行した。
・ マーブリング	水を張った容器に染料を落とし、その上に用紙を浮かせ、幾何学的な模様を用紙に写す。ポチ袋等として商品化。販売会が軒並み中止になる中、チラシを作成して、新たな販路を広げられるよう努めた。
・ 体操	マットを敷いてストレッチやマッサージ。座位での上肢運動の実施等。緊急事態宣言下で中止時期もあったが、基本月1回理学療法士にみていただき、側弯の強い方のリラックス姿勢や動かし方のアドバイスを受けた。
・ 音楽療法	外部講師（音楽療法士）による活動は中止し、職員が飛沫防止をした内容に変更して音楽を楽しんだ。
・ COM	カードやiPad等の様々なツールを使用し、コミュニケーションの方法や技術の向上を図る。マスクを装着するなど、飛沫防止対策しながら取り組んだ。
・ 美化	接触感染を防ぐため、直接利用者さんに清掃してもらうことは難しかったが、所内の整理、備品の在庫チェックを中心に実施した。
・ 広報	広報誌の編集と作成、発送作業を実施。担当利用者を中心に企画会議も実施。行事が少なくても楽しめるような内容にしようと熱心に取り組んでいた。
・ 映画会	誕生月の利用者のリクエストによる、映画・お笑い・アニメ等の映像鑑賞。世間でも映画館に行けない状況だったため、大変好評だった。
・ カラオケ	PC・TVを使用して、利用者のリクエストに沿った曲や映像を流し、飛沫防止のため歌うことはせず、手拍子や拍手、楽器を鳴らして楽しんだ。
・ ミーティング	活動内容の検討等、様々な意見を交換し合う。コロナ禍で行事は減ってしまったが、室内レクを増やし利用者さんからのリクエストにも応じることができた。
・ フリー	各自のやりたいこと（絵画・TV視聴等）を可能な範囲で実施。散歩に行けなかったため、残念がる方もいた。
・ 学習会	「食」や「健康」をテーマにした内容をクイズ形式などで楽しみながら学んだ。
・ アート	共同作品「つどいの木」に季節の花や生き物を添える、オリジナルTシャツのデザインの考案などを行った。

(2) 地域交流

<ul style="list-style-type: none"> 「玉堤小学校まつり」、「YK会のクリスマス会」、「区民ふれあいフェスタ」、「玉川支援ねっと」等新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から全てのイベントが中止となった。「玉川支援ねっと」の職員のオンライン会議のみ継続し、次年度に交流会ができるよう検討した。

(3) 家族、関係機関との連携等

<ul style="list-style-type: none"> 保護者会をはじめ、個別面談や行事等も実施できず、直接会う機会が少なくなった分、電話や文書等で普段以上に丁寧に意向や様子等を確認するように努めた。
--

(4) ボランティアや実習生の受入れ

<ul style="list-style-type: none"> 夏のボランティア体験(夏ボラ)、介護等体験生(教職員養成課程)、田園調布学園、セントメリー学園(年2回)等、全て中止となったが、当所のボランティアさんとのつながりは今後も継続していけるよう暑中お見舞いやクリスマスカード、年賀状を送るなど交流を図った。 光明学園からの実習生は、感染対策を徹底しながら、2名の受け入れを行った。

(5) 危機管理

- ・ 緊急事態宣言の発令に伴い、人との接触を抑えるため男女別に分かれての通所を実施した。全員での通所再開時は、手洗い・うがい・手指消毒の徹底、マスクの着用は勿論、昼食時間をずらし人数を減らす、個室への人数制限や換気、活動や休憩時に他の人との距離を保つ、パーティションの設置、来所者の制限等、所内でできる最大限の感染防止対策を行った。
- ・ 助成金や感染防護支援金を活用し、加湿空気清浄機や訓練マットの購入、空調設備の清掃等を実施し感染防止対策の充実を図ることができた。また、衛生用品の入手が困難になる中、マスクや手指消毒ジェル、高濃度アルコール消毒液等の寄付もいただくことができ、衛生管理を保つことができた。
- ・ 職員は出勤前の検温と体調チェック、外食・外出の自粛、時差出勤、テレワークの活用、会議・研修のオンライン参加等を実施し、感染防止に努めた。また、世田谷区の社会的検査（PCR 検査）を2回（12・3月）受検し、全員陰性だった。

(6) 職員研修の実施

- ・ 法人職員が一同に会するのは感染リスクが伴うため、「ご縁の会」は各事業所の管理者が製作した映像を事業所ごとに閲覧する形で実施した。
- ・ 法人の階層別研修は、対象者2名中1名が参加した。「虐待防止研修」は世田谷区福祉人材センターのオンライン研修を受講。法人全体研修は、5回に分かれてオンライン研修に参加した。

(7) その他（苦情・事故等）

- ・ ヒヤリハット…27件（バスの配車・乗車ミス、転倒や手足がぶつかる、連絡帳記入漏れ等）
- ・ 苦情…1件（8月：バスの乗降場所を変えて対応）
- ・ 事故…0件

3 重点課題と取り組み・成果

2020年度は以下を重点課題として挙げ、取り組んだ。

① 活動や行事の見直し・拡充

→ コロナ禍の影響により、例年利用者が楽しみにしている宿泊訓練やクリスマス会と言った行事が実施できなかった。活動内容は、感染防止対策をしながらも利用者が少しでも楽しめる内容にできるよう工夫した。また、運動不足や自粛疲れを軽減できるよう室内レクを増やして気分転換をしたり、感染への不安感を少しでも和らげられるよう正しい感染対策の仕方を伝えたり、話を聞く時間を多く設けながら心身の安定が図れるよう努めた。

② アセスメントシート等の書類の整備

→ 保護者の疾病による長期入院と同時に利用者の体調不良による入院が見られた。短期入所先への応援や関係者との連携をはじめ、ご家庭への細かなフォローを実施した。保護者の高齢化に伴い、このようなケースが毎年のように見られる傾向にある。そのため利用者の情報共有ができるようケース会議を実施し、アセスメントシートの完成にも至った。

③ 職員のスキルアップ

→ コロナ禍でオンライン以外の外部研修を受けることは難しかったが、ヒヤリハット事例を全員で共有・検証することで、今年度は大きな事故案件は起きなかった。また、服薬の配布ミスがあっても他の職員が気づいて未然に防ぐことができていた。新年度に向けて、業務のマニュアル作りも開始した。